



2016
平成28年

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。
お問い合わせ・ご意見は粕江市地域活性課へ

発行 ●粕江市地域活性課
〒201-8585 粕江市和泉本町1-1-5
☎3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ●特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 粕江市和泉本町1-35-3
ル・ミリオン・イイダ3階A号
☎3430-6617 FAX3430-6743

学ぶ

「粕江こども食堂」は、子どもの食育、本物の味、だんらんを目的に、ことし1月に市民約20人で発足した。



家族で食事を楽しむ参加者

1月にあいとぴあセンターで初めて食堂を開催したところ、定員の2倍以上の約100人の親子が参加、大きな反響を呼んだ。その後も、毎月1回同センターで開催、毎回多くの参加がある。こうした活動が市民の関心を集め、食材を提供したり、調理を手伝う人も増えるなど、活動の輪が広がっている。

粕江こども食堂

子どもに食の楽しさ伝える

同会は、添加物を使わない素材を使い、きちんと調理した食事を子どもたちに提供し、家庭料理の良さや家族のだんらんを教えることに力点を置いており、食堂には家族連れでの参加が多い。

夏休みには、7月25日(月)～8月5日(土・日曜を除く)に駒井町1丁目の日枝神社でラジオ体操を兼ねたこども食堂を開催している。午前6時20分に受け付け、ラジオ体操の後、おにぎりとおみそ汁を提供する。参加は自由。

同会では、今後は貧困家庭の子どもに食事を提供したり、学習支援などにも活動を広げていきたいと話している。

問い合わせは ☎090-1766-6992市川さん。

お店

JAマインズ粕江支店近くにある「だいいこまFamilia」は、ランチタイムに提供している無農薬有機栽培の米を使ったタコライスで人気の店。夜は居酒屋として営業するほか、キッチンカーによる出張販売もしており、ファンも多い。

だいいこまFamilia

合いびき肉、レタス、トマトなどをご飯に乗せたタコライスは、肉と野菜をバランス良くとれるので、夏バテ気味の胃腸にお勧め。家で食べるためテイクアウトを頼む人も多い。同店ではタコライス(600円・価格は税別)のほか、アボカド、チヨリソー、チリコン、チャーシュー(各700円)の5種がある。手作りトルティーヤを使ったひき肉タコス、チキンタコス(各400円)、チリコンカン(500円)も好評。子どもと食べる場合は、香辛料が効

いたトマトのサルサ(ソース)を別皿に頼むこともできる。

店長の中村朋子さんは「自分で食べ続けて体調が良くなった玄米を、たくさんの人に食べ



中村さん

てもらいたい」と米にこだわり、外はカリッ、中はもっちりとなるよう炊き上げる。好みで白米も注文できる。食の安全にこだわり、野菜をていねいに洗い、化学調味料を使わないので、子どもも安心して食べられる。(shino)

健康志向のタコライスが人気

☎6796-3508 東和泉1-11-6メゾンドゥくらはし102 営業(ランチタイム) = 午前11時30分～午後2時 火・木・金曜のみ営業

KoKoA

放課後の小学生の居場所



センターでの映画鑑賞、餅つきなどの行事や年6回ビーチボールの講習を受け、市内の大会に参加している。

粕江第六小学校=施設は独立した建物の1階を使用。約460人が登録、1日平均50～60人が利用している。地域とPTAとの共催で正月に餅つきを催すほか、工作、グラウンドゴルフ、秋祭り、クリスマスなどのイベントを年6回程度催す。

和泉小学校=施設は校舎の多目的室を使用。約500人が登録、1日平均30～40人が利用し、低学年が多い。毎年、2月に地域の人と餅つき大会などの行事を催すほか、年8回ビーチボールの講習会を開き、市内のビーチボール大会に参加している。また、月1回のPTAによる読み聞かせの会のほか、さまざまな催しを開いている。

緑野小学校=施設は校舎内の専用の部屋で畳敷きの部屋を放課後クラブと併用している。約390人が登録、1日平均40人が利用し、低学年が多い。毎年、6月に飯ごう炊さん、餅つきなどの行事を開催、また、月2回工作教室などを催している。

問い合わせは ☎3430-1111 粕江市児童青少年課。

KoKoA(ココア)は、放課後の小学生の居場所として市内の全小学校に設けられ、子どもたちは宿題や読書、備え付けの遊具やゲーム、外遊びなど思い通りに過ごすほか、月1回開催される教室や地域の人と協力して開催するイベントに参加する。

子どもたちが学年を越えて異年齢の子と集団で遊び人間関係を深めることなどを目的として、平成13年に粕江第五小学校で試験的に開設した「子どもフリースペース」が前身。その後、14年から22年にかけて順次各小学校に開設された。

その間、それまでボランティアが子どもを見守る方式だったものを、安全管理員を置き、利用する子どもも登録制に変更された。

25年度には現在のKoKoAに名称が変更された。KoKoAは「こまへのこどもみんなあつまれ」の頭文字を取ったもの。施設は、専用の建物や空き教室の活用、放課後クラブとの併用など学校によって違いがある。

実施時間は、平日は授業の終了から午後5時(冬季は午後4時30分)、土曜日は学校によって違いがあるが、午前中が多い。夏休みなど長期の休みは午前9時～午後5時(冬季は午後4時30分)。KoKoAは、学童保育や放課後クラブと違い、子どもを預かるのではなく、見守るのが特色。安全管理員として登録した地域の人が1日あたり3～4人で子どもたちの安全を見守るとともに、遊びの相手を務めており、保護者から「安全な場所で安心できる」と好評。学童保育や放課後クラブの待機児童の

受け皿にもなっており、登録する子どもの数が年々増えている。

各小学校のKoKoAは施設のほか、教室やイベントにそれぞれ特色が見られる。私学に通う児童も登録でき、子どもたちの交流の輪を広げる場にもなっている。

粕江第一小学校=施設は校舎と別棟で、放課後クラブとの併用。約570人が登録、1日平均50～80人が利用しており、他校と比べ高学年が多い。毎年、秋祭り、餅つきなどの行事のほか、夏休みにはイベントを開催、ことしはプレーパークで遊びの会を行う。また、月1回折り紙教室などを催している。

粕江第三小学校=施設は独立した建物の1階を使用。約350人が登録、1日平均40人が利用しており、低学年が多い。毎年、正月、秋祭り、クリスマスなどの行事を催すほか、月1回習字教室を開いている。

粕江第五小学校=施設は空き教室や芝生広場を放課後クラブと併用。約440人が登録、1日平均約40人が利用しており、ほとんどが低学年。毎年、五小夏祭りを共催するほか、野川地域



緑野小KoKoA



六小KoKoA